

# 館報 はだ



令和6年11月1日現在

|     |         |
|-----|---------|
| 世帯数 | 6,423戸  |
| 人口  | 15,237人 |
| 男   | 7,377人  |
| 女   | 7,860人  |

## 11区 自主防災訓練 AEDの使い方講習



11区では8月17日(土)に、西部集落センターにて、山形消防署の丸山署員を講師に招き、AEDの使い方講習会を実施しました。

当日は救命処置への関心の高さからなのか、子どもも合わせて約60名の方に参加いただきました。訓練開催にあたり、講師より「救急車を要請して到着までは5〜10分程度かかる。到着までの胸骨圧迫や人口呼吸の一次救命処置により命が助かる可能性もある。本日の訓練で知識と技術を学び、万が一このような場合に遭遇した際に役立ててほしい。」と話がありました。

まずは、胸骨圧迫。  
・約5cm沈むように圧迫し、圧迫後は完全に元の位置まで戻す。  
・圧迫のテンポは、1分間に100〜120回、一定のリズムで絶え間なく行う。  
・胸骨圧迫30回と人口呼吸2



回の組み合わせを繰り返す。参加者は交互に胸骨圧迫を人形で体験し、中には親子で確認しながら行っている姿も見受けられました。参加者からは子どもと大人の力加減について質問があり、体格・体力差があるため、力加減を調整することが必要と教わりました。

次にメインのAED操作。AEDは行政機関、体育館、病院、郵便局、学校、駅などに設置されているので、最寄

りの設置場所を確認しておくことが必要です。操作にあたっては、私自身、人の心臓に電気ショックを与えることが怖いと思っていました。しかし、電気ショックが必要かどうかはAEDが自動解析し、すべて自動音声に従って行えば安心して使えることがわかりました。参加者の大半が初めてAEDに触れる方で、最初のうちはおっかなびっくり触っていました。交互に行っているうちに自動音声に導かれ、適正な操作ができていました。



訓練後に「大勢で人形を使用した訓練に尻込みせず、積極的に体験してくれてやりがいのある訓練だった。」と講習をいただきました。参加者にとっても有意義な講習会になったのではないのでしょうか。

## いまどきの波田小学校 総合的な学習の時間

小学校を卒業して久しい方も多いと思いますが、近ごろの小学校は実に多様な学び方をしていっているので紹介します。

一つ目は3年生の上高地源流体験です。2019年から松本市海洋パイオニアスクールが導入され、波田小学校は3年間モデル校になり、梓川が海につながる自然学習がスタートしました。4クラスがバスに乗り、自然ガイドとともに上高地を訪れ、源流を探して水を手を入れ大はしゃぎ。途中でダムをのぞき込み、昔の人が行った治山と水利の歴史の解説も受けました。今年9月13日(金)に実施し、お天気が良く、9時から3時までの楽しい遠足学習になりました。



二つ目は4年生の梓川リバーアドベンチャーです。小

学校目前の梓川中流域を訪れます。晴天無風の9月26日(木)に4クラスが交代で梓川まで歩き、体験学習が実施されました。

河原に着くとヘルメットとライフジャケットが一人ずつ渡されて着用します。次に河原に向かい、川にいる生き物を一人ずつ小さな網で探すとカジカが獲れました。きれいな川の指標魚で、昔は子どもたちがよく獲ったものです。

そして水流のしくみについて解説の後、実際に川に入り泳ぎました。プールとは全く違う川で身体を動かす体験は身を守ることもつながります。ガイドから「絶滅危惧種は川で泳ぐ子ども。川をよく知り、いっぱい遊んでください」とのまとめに、嬉しそうな子どもたちでした。



# 19区 子ども祭り



9月29日(日) 秋曇りの中、幸いにも雨に降られることなく「19区子ども祭り」が19区公民館で開催されました。

子ども会育成会、地元消防団、保護者の方々の準備により、ゲームやお菓子、消防体験と様々な遊びや食べ物を用意され、子どもたちの笑顔やはしゃいでいる声でいっぱいとても賑やかなお祭りとなりました。



子どもの笑顔は純粹です。笑って楽しんでいたら、「楽しい」「おいしい」「うれしい」「おもしろい」など、幸せな時間を過ごせている証だと思えます。

素直に喜び、いきいきと屈託のない笑顔を見ていると、私も大人になり忘れていた純粹な気持ちを、取り戻せた気がしました。「笑顔は伝染する」とよく言われます。参加された保護者の皆さんも、きっと子どもたちの笑顔につられていつもより口角が上ががり、穏やかな楽しい時間を過ごされたのではないのでしょうか。

# 13区 鼠街道って、何?



私の家は淡路城近く、地図アプリで開くと鼠街道という文字が出る。鼠?ここが街道?今はひっそりと静まりかえった何の変哲もない松本市道だが、なぜそのように表記されるのか気になり調べてみました。

この波田地区は、かつて野麦街道が通っていたとされています。波田町時代の教育委員会会で発行している「若澤寺跡2」によると、かつて野麦街道は信州松本方面と飛騨高山方面とを結ぶ、歩荷や牛方なども通う交易の道、また若澤寺への主要参道であり、主要交通路として発展を遂げ、村の中心となっていたそうです。



第15回 昭和30年代の地図にみる野東街道と濃橋の位置  
波田町教育委員会発行「若澤寺2」から引用

また「ねずみ」という言葉を改めて調べてみると、動物の鼠の特徴から「小さいもの」「つまらないもの」「隠れたもの」「密かに行われること」を表す隠喩として使われることもあることを知りました。

思い返してみると、たしかに世の中には『ねずみ』とつく言葉やことわざがいくつもあるなと思いました。ここからは私の推測の話になりますが、鼠を象徴する意味から、「鼠街道」とは野麦街道へとつながる隠れた抜け道、関所を通らなくて済む道、素早く通り抜ける道というような意味があったのではないかと考えました。

少し話はそれますが、波田地区には同じく『鼠』という文字が付く「鼠海渡」という地名もあります。調べれば調べるほど謎解きはエンドレス。今は目に見えない歴史とドラマがこの地にはあったのです。結論を出すことはできませんでしたが、下段の記事にもあるように、皆さんも不思議な地名を調べてみたら面白い発見ができるかもしれません。



# アザ「字」を知る



私は波田出身ではなく、いわゆる東京からの移住者です。波田に引っ越しして、「字」というものを初めて知りました。波田の人は場所を伝えるときに必ずと言っていいほど「字」を使います。はじめは「そこはどのあたりなのか?」とピンとこず。しかし、今では「ああそこなのか?」とわかるようになりました。

その一方、その字の由来はなんなのか?そういう疑問を持つようになりました。先日、波田支所に用事があり、ふと壁の張り紙を見ると館報はたまち。確か昭和51年のものだったかと。特集は『字の由来』。

思わず見入ってしまった。「ああなるほど、私の住む地域の字の由来はそうなのか。あの変わった字はそういうことだったのか。」とてもいい記事だったと約50年前の記事に感銘を受けました。現在もどこかでいつも見られるような環境があればいいな。学校教育の現場でも、地域学習として伝わっているといいなと思いを馳せて。